

香雪美術館所蔵「帰来迎図」の修理が始まりました

極楽への往生を願う念仏者の臨終の時、阿弥陀如来とその聖衆が迎えにくる様を描いた「来迎図（らいごうず）」は、平安時代後期以降に盛んに制作されました。この作品は、既に往生者を迎え取り、極楽に帰ろうとする姿を描く「帰来迎図（かえりらいごうず）」です。先頭から3番目の観音菩薩が捧げる蓮台には、臨終をしたばかりの僧が合掌して坐り、極楽へと連れていかれます。「帰来迎図」を単独で表した掛幅画は極めて珍しく、浄土教信仰の高まりの中で生まれた貴重な作品です。

しかしながら、多数の横折れが入り、画絹の欠落や顔料の剝落が進行していました。今年、三菱財団の2019年度文化財修復事業助成金をうけて、本格的な修理を行うことになりました。この修理によって文化財としての価値も一層高まると期待されます。完成は2020年9月を予定しています。



観音菩薩が捧げる蓮台の上に
袈裟をつけた僧の姿



「帰来迎図」
重要美術品
南北朝時代 14世紀